

## 令和4年度コンプライアンス確保に向けた校長研修会



### 改めて 当事者意識をもって！

4月12日（火）に、不祥事を根絶しようとする管内の全小中義務教育学校の校長先生を対象に研修会を開催しました。研修会では、県教育庁の秋本学校教育部長から、教職員による不祥事根絶に向けた取組の重要性や切実な現状について話がありました。参加者は、改めて当事者意識をもって取り組んでいくことの大切さを実感することができました。

#### グループ協議から

- わいせつ行為等にかかる不祥事は、校種、職種、年齢、対象、時期等を問わず、どの学校でも起こりえる問題である。ひとたび問題が起こると被害者の心身に一生の傷を残しかねない。より一層の危機意識をもって取り組む必要がある。
- コンプライアンス研修の充実により、意識の日常化を図ることが大切である。
- 風通しのよい学校づくり、明るく楽しい職場の雰囲気づくりなど、不祥事をなくすための根本的な環境づくりに向けた取組を充実させていくことが重要である。

当事務所としても、「水戸教育事務所だより」等での啓発、学校訪問指導における指導・助言と学校のコンプライアンス確保に向けた取組状況の確認、管理職研修会での再確認及び継続的な啓発等を通して、不祥事の根絶に向けて取り組んで参ります。また、「風通しのよい学校づくり」のためには、教職員の「やりがい」を育てていくことも大切であると捉え、働き方改革の推進にもより一層取り組んで参ります。



### 春夏冬話（あきない話）コーナー

～ 茨城訛りはあったかい～



最近 茨城出身のお笑いコンビのカミナリのおかげで、茨城訛りが熱い。

先日、地元の産直に立ち寄るとメロンの時期と重なり大変な混雑だった。買い物をしてレジに並ぶと、私の前に都会からのお客さん？とレジ担当者との押し問答が勃発中。ばら売りのメロンをたくさん買ったお客さんが、メロンを持ち帰るのに「空き箱が欲しい」とレジ担当者に交渉中だった。お客さんが、レジの脇にある空箱を見つけて

「その空き箱がほしい」「これは ないよー」

「いやそこにあるじゃないか」と語気が強くなり、「これは ないよー」と平静に対応するレジ担当者。箱を指しながら「その箱がほしいんだよ」「いや ないよー」と3回ぐらい押し問答。険悪なムードに一発触発かと気を揉んでいたら、レジ担当は、お客さんにゆっくりと丁寧な標準語で、「ないよーなの、苗を買ってもらったお客さんの苗用の箱なの」と説明して一件落着。お客さんは納得して5円の袋を買って丸く収まった。まるで生で漫才を見ているようで思わず拍手をしてしまった。

そうだった。茨城では訛ってえをいと発音することもあるのだ。小学生のころ道草をしていると、近所のばあちゃんによく「はやぐ、えーさけえれー」（早く家に帰れー）と言われたことを思い出した。訛りや方言は勘違いを生む場合もあるが、温かく人の心を開く作用がある。

支払いを終えたお客さんとレジ担当者の中に生まれたあったかい笑いを自分も共有することができ、幸せな気持ちで帰宅することができた。（by S・K）

